

7-6 品質向上推進特別本部

7-6-1 品質向上推進特別本部WG

1. 主な活動の記録

(1) 活動目標

品質向上推進特別本部の実行組織である品質向上推進特別本部WGは、「品質向上推進ガイドライン (GL)」を発行すること、会員企業がガイドラインに基づいて活動し品質向上に努めること、を目標としている。

平成20年10月に設立した品質向上推進特別本部WGは、主として過去に発生した詳細設計のエラーについて、関東・中部・近畿支部と各地方整備局の品質活動をモデルとして、現状把握、受発注者別要因、発生のメカニズム、対応策の評価・分析を進め、品質向上に対する有効対策について活動を進めてきた。

平成22年8月には「中間報告」、平成23年3月に「エラー防止に関するガイドライン・ドラフト」を策定し、全国9支部会員に周知、試行を行った。その後、平成23年6月までに試行した結果を取りまとめ、平成23年7月に品質向上推進GLを発行した。

(2) 品質向上推進GLの運用状況の把握

品質向上推進GLの運用状況の把握のため、平成24年度および平成25年度業務を対象に協会加盟会社にアンケート調査を実施した。アンケート調査内容は以下のとおりである。

- ① プロジェクト毎の運用コストの把握
- ② 現状のプロジェクト内における照査歩掛の妥当性の確認
- ③ 第三者照査の実態把握
- ④ 企業独自調査の実態把握

なお、平成26年度以降は、照査に係る①プロジェクト内照査、②第三者照査のチェックシート及び赤黄チェックの歩掛実態調査についてアンケート調査を実施している。

平成27年度以降は、国土交通省の詳細設計業務全般で品質向上推進GLの運用コストの実

態を把握するために、協会加盟会社にアンケート調査を実施している。平成29年度は平成27、28年度発注業務を対象として同様のアンケート調査を行い、結果の分析集計を実施した。これらアンケートと分析結果は、「要望と提案」、「白書」に反映するとともに、調査結果報告書として取りまとめ、協会ホームページに掲載している。

(3) 施策の検証および新たな施策の検討

平成30年度は、品質向上に向けた様々な施策について、その運用実態や効果を検証し、有効性や課題を整理し、改善策を検討した。WGは会議体としては開催せず、技術委員会と品質向上専門委員会が協力して対応した。

詳細設計業務の品質確保については、合同現地踏査や赤黄チェックなど受注者による照査の充実に関する活動、条件明示チェックシートや業務スケジュール管理表など業務進捗を円滑にするための施策に、協会及び企業が独自で、あるいは国土交通省との協働で取り組んでいる。これらの施策について、協会企業へのアンケート結果を分析し、施策の効果、課題、運用改善への提案を整理した。

以上の成果は、「未来塾」の資料に反映されている。

2. 次年度の活動

建設コンサルタンツ協会の組織再編により、品質向上推進特別本部および品質向上推進特別本部WGは、平成30年度でその役目を終える。品質向上に係る活動は、中期行動計画(2019～2022)の施策「品質確保のための制度・仕組みの確立」を担当する品質委員会へ引き継ぐことになる。

(品質向上推進特別本部委員長

村田 和夫)

(品質向上推進特別本部WG WG長

重永 智之)